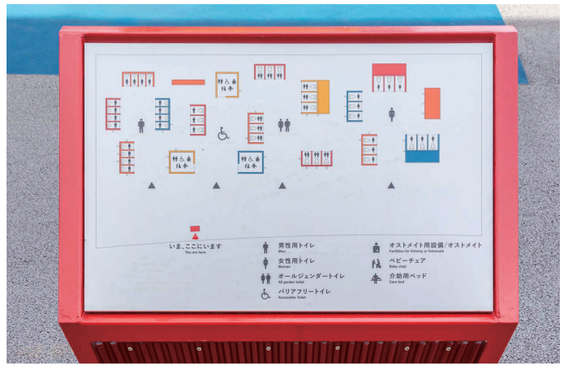
2025年日本国際博覧会 トイレ5

外観

「トイレ5」は、積み木のようにユニットを積み重ねて構成する建築手法。カラフルなユニットを緩やかにつなぎ共存させることで、会場デザインコンセプトである「多様でありながら、ひとつ」を表現している。



案内図

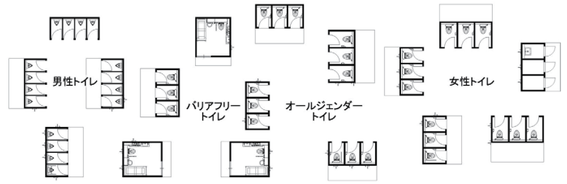
エリア前に触知図の案内図が設置されており、ピクトグラムを用いて、各ブース内の機能や設備、全体像と現在地がひと目でわかるよう工夫されている。

男性トイレ 全体

男性トイレは、4ブースで1ユニットの小便器コーナー4ヶ所と、3ブースで1ユニットの大便器ブース1ヶ所で構成。一般的な「男性トイレ=青色」というイメージにとらわれず、多彩なブースカラーを採用している。

図面

トイレは、男性、女性、オールジェンダー、バリアフリーの4エリアで構成。各エリアを壁で明確に仕切らず、個室型ブースのユニットをまとめて配置させることで、緩やかにエリアを分けている。

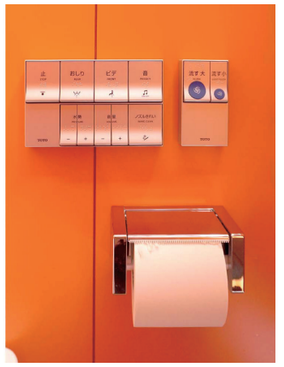


男性トイレ 小便器ブース

小便器ブースも、利用者のプライバシーに配慮して、すべて扉付きの個室型としている。小便器は、節水性や清掃性に優れた壁掛型の自動洗浄小便器を採用している。

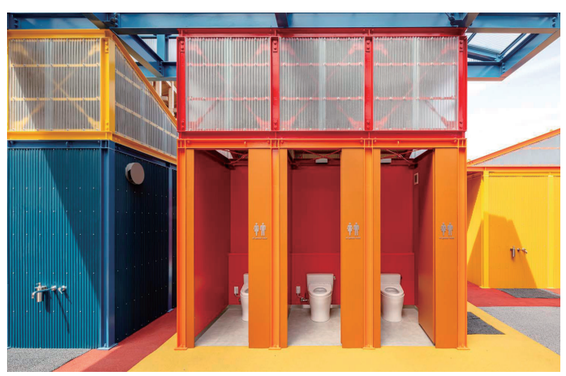
女性トイレ 全体

女性トイレには、3ブースで1ユニットの大便器コーナー4ヶ所を設置。一般的な「女性トイレ=赤色」というイメージにとらわれず、多彩なブースカラーを採用している。



女性トイレ
大便器ブース

大便器は、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式とウォシュレットアプリコットPを設置。洗浄ボタンやウォシュレットのリモコンは、電源不要なエコリモコンを採用している。

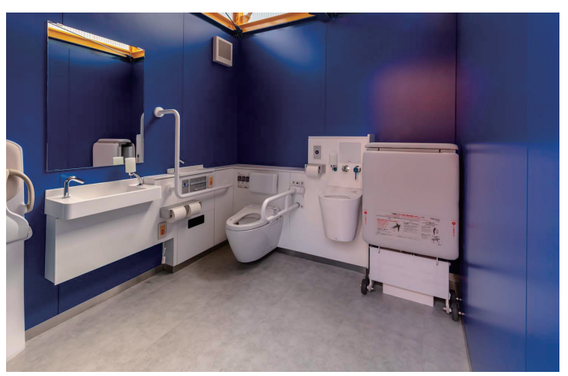


オールジェンダートイレ

オールジェンダートイレは、多様な利用者に配慮し、性別を問わず使用できる大便器ブースが、12ブース設置されている。

バリアフリートイレ

バリアフリートイレは、3ヶ所設置。扉には内部の設備がひと目でわかるよう、ピクトグラムと英語で掲示されている。



バリアフリートイレ

車いす使用者やオストメイトなど、さまざまな利用者に対応する器具を備えたバリアフリートイレ。身体状況、利き手や使いやすさに配慮し、左右勝手違いで用意されている。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲（ゆめしま）で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ5」は、積み木のようにカラフルなユニットを積み重ねて構成する建築手法により、各トイレを緩やかにつなぎ共存させることで、会場デザインコンセプトである「多様でありながら、ひとつ」を表現。1970（昭和45）年の大阪万博を最後に終焉を迎えたとされる、建築の「生命性」に着目した思想「メタボリズム」を55年の時を経て再解釈し、大阪の地で再びよみがえらせた。閉会後にはユニット単位で解体・移設し、公園や広場などで、必要な数や形に組み換えて利用することを計画している。

トイレの特長

男性、女性、オールジェンダー、バリアフリーの4つのエリアで構成。各エリアを壁で明確に仕切らず、個室型ブースのユニットをまとめて点在配置することで、緩やかにエリアを分けている。プライバシーに配慮して、ブースはすべて個室型とし、男性トイレには小便器ブース16ヶ所と大便器ブース3ヶ所、女性トイレとオールジェンダートイレには、それぞれに大便器ブースを12ヶ所ずつ設けている。バリアフリートイレは3ヶ所用意され、車いす使用者やオストメイト、大型ベッド利用者など多様なニーズに対応する器具を完備し、だれもが使いやすく配慮。また、それぞれのブースの配色は、性別での色分けといった既成概念にとらわれず、空間全体を鮮やかな色彩で構成し、明るく印象的な雰囲気を演出している。

建築概要

名称	2025年日本国際博覧会 トイレ5
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20（2025年日本国際博覧会会場内）
施主	公益社団法人 2025年日本国際博覧会協会
設計	米澤 隆／米澤隆建築設計事務所
竣工年月	2025年3月
延床面積	246.04㎡
構造・階数	鉄骨造・地上1階

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
ウォシュレット アプリコットP（擬音装置「音姫」付きエコリモコン）:TCF5831AUP
自動洗浄小便器:UFS900WR
コンパクト・バリアフリートイレパック:UADAK21L1A1ADD2BA
パブリック用折りたたみシート:EWC500R系

2025.07 作成　無断複製・転載禁止 ©TOTO LTD. 2025 All Rights Reserved 24101